

## 石鎚山・剣山 2006.5.3-7 山行記録

石鎚山との出会いは、7年前に読んだ小説『永遠の仔』がきっかけだった。3人の少年少女が永遠の救いを求めて登ったとされる石鎚山。それは自分を救うために、神様に見守ってもらうために、そして何より、自分自身がこの世界で生き抜くために、登頂した山。だから私も、この山に登りたかった。石鎚山は、古くからこうした何人もの救いを求めた心を包み込んできたのだと信じて。そして、モウルとジラフと優希の想いを胸に…。

### 5月3日(水)

まずは、早朝の寝坊から一日は始まった…。前夜から始めたパッキングもさることながら、おニューのデジカメと腕時計に心はずませて夜更かししすぎたせいだったかも。

東京駅。GW初日の新幹線自由席は満席で、指定席の座席の隙間に座り込んで眠った。床に座り込むのは疲れるが、銀マットをまるめて敷くとかなり快適。岡山駅にてローカル線に乗り換え、四国初上陸。たくさん島々が浮かぶ瀬戸内海が眩しかった。

四国にて、まずはレンタカーを借りて観光をしながら西へ向かい…、の予定だったが、レンタカーの空きは見つからず、ようやく手配できた車が伊予西条にあり、5日から7日まで借りられるとのこと。これに望みを託し、再びローカル線で伊予西条へ。レンタカー屋で不要な荷物を置かせてもらい、ここからバスとロープウェイで石鎚山成就神社へ。宿泊場所の白石旅館は、個室が用意されており、お風呂つき。天気はばっちりだし、明日からの縦走が楽しみだ。

### 5月4日(木)

3時起床。部屋でおにぎりを食べ、4時出発。星空の下、ヘッドランプを使っての出発だったが、付近の宿坊に泊まっていた団体客も同じ頃に出発。多くの人が石鎚山の白装束をまとっており、石鎚山の信仰の深さが伝わってきた。(ちなみに彼らは埼玉から毎年訪れているそうである。)

石鎚山といえば、修験者の行場がたくさん残されている(もちろん迂回路もあるが)。そこでまず初めに現れるのが一の鎖(試し鎖)。80度くらいの角度の岩場に垂れている太い鎖をしっかりと掴んで登るわけだが、慣れてくれば難なく登れる。そして、登りきった岩場は360度のパノラマ。みなこの景色を眺めたくて、岩場を登り続けてきたのではないだろうか。その後も続く二の鎖、三の鎖を登りきれば、石鎚山山頂。ラピュタに出てくるような世界。そうだ、これが見たかったんだ、と…。さらにアルプスのような稜線を進み、天狗岳。優希たちを思い出しながら、感慨にふけた。

そして稜線上を進んで土小屋を目指し、矢筈岩までは進めたが、ルート不明瞭のため涙を呑んで断念。(翌日、このルートを通ってきた人に話を聞くと、矢筈岩付近かその手前にど

うやら左側に下りるルートがあった、とのことだった。) 石鉈山山頂に戻り、今度は迂回路を経て二ノ鎖へ。この迂回路にはルンゼを通過するため、人工物の階段や足場が作られていたが、視界が悪ければいつどんな事故が起こっても不思議ではない場所かもしれないと実感した。

二ノ鎖から土小屋までは、なだらかな下り。多くの親子連れや団体登山客とすれ違った。(おそらく、優希たちもこちらから登ってきたものと推測される。) ここで石鉈山に 1200 回登っているという松山の男性と出会う。元気よく「おのぼりきーん」と登ってくる登山者に声をかけていたが、彼の姿を見ていると、石鉈山に来ることが健康維持を実践しながら人生を豊かにしているのでは、と思われた。病気になってもここに来れば元気になるとも話していた。2000 回登ったら今度は全国の山へ行きたいとの夢を持っていたが、きっと彼ならそれを成し遂げるに違いない。

土小屋から瓶ヶ森までは車道付近の登山道を歩く。森の中、熊笹の中、と所々で景観は変わるが、ただひたすら歩く、といった感じだった。特筆すべきは子持権現山。その鎖場はこのまま別世界へ連れて行ってくれるのではないかと思われるくらい、長い長いまっすぐな岩場。途中まで登ってしまえば後に引き返すのもためらわれ、結局なにやら不安な気持ちに襲われながらも、最後まで登ってしまった。着いてみると、そこは特に何もない場所なのだが(展望もなし)、ここまで登ってきたことが、何かの自信につながればいいなと自分に言い聞かせた。(そして、この鎖場を下りるのが怖かった。しかし鎖場の下に待っていてくれる人がいるわけで、何とかして無事に下りねば、という思いもあったかな。)

天候も悪くなり、ガスの中ようやく辿り着いた瓶ヶ森ヒュッテは、昭和 28 年に建てられたままの姿をした、トタンでできた小屋。今にもつぶれてしまうのでは…、と正直そんな不安もよぎったが、慣れてくれば案外快適?? 長年、小屋を守り続けてきたのであろう女主人や小屋のスタッフの対応がとても丁寧で、温かい気持ちにさせられた。また、この小屋のカレーライス是有名らしく(キャンプ泊まりでもカレーライスだけは食べに来る人もいるらしい)、確かに美味しかった。これも昔からの伝統の味なのかもしれない。

夕食を終え、第一キャンプ場へ夕陽を見に行く。雲に合間に顔を覗かせていた沈みゆく夕陽はあいまいなものだったが、夕闇の石鉈山がとても幻想的だった。それにしても、今朝あの山頂に立っていたことを思えば、今日は本当によく歩いた日だ、とつくづく感じる一日だった。

## 5月5日(金)

4時25分、ヘッドランプを装着して小屋を出発。目指すは瓶ヶ森女山。昨日のガスが深い雲海を作り出しており、我々は雲の上の世界にいたのだ。女山からは見事な御来光を拝むことができ、その後、男山経由で小屋に戻る。爽快な朝だった。

朝食の代わりに作ってもらったお弁当(おにぎり)を、結局は小屋で食べ、名残惜しくも下山。東之川経由の下山道は、ルートははっきりしており、ときどきヤマツツジのピ

ンク色が鮮やかに映えていた。途中の台ヶ森は、ルートからは外れることになるが、森というよりも大きな岩を登る場所で、静かに佇む秘密の楽園、といったところか。さらに下ると東之川に出る。東之川からの林道歩きは、この季節ならでわの新緑を楽しめた。ふと気がつけば、石鎚山が遥か遠く遠くに聳えていた。次にここに来られるのは、果たしていつになるのだろうか。

西之川に到着し、バスの時間までしばし沢で水遊び(!?)。その後バスで伊予西条に下り、レンタカー屋で車を借り、四国横断レンタカーの旅が始まった。

琴平にて、まずは本場の讃岐うどんを堪能した(中野うどん学校)。つるつるしこしこ。本当にうまい!! そして食後に焼き芋ソフトクリーム。確かに食べると焼き芋だった。

そして、金刀比羅宮参拝。途中の(といっても785段は登るが)本宮までは、老若男女を問わずの大賑わいだった。親子連れ、カップル、ジョギング、犬の散歩…。ここから奥社までは人気もだいぶ減るが、合計1,368段を登りきると、琴平の街並みが一望できた。果たして、これでご利益を受けられただろうか。

下山後お土産を買い、いよかんソフトクリーム、きんつばを食した。やはり旅にグルメはつきものである。そして、さっぱりしたいと宿泊場所を求めて、彷徨って…、予定外の高知県へ。気がつけば、四国の4県(愛媛→香川→徳島→高知)を回っていたのだった。

## 5月6日(土)

早朝からドライブ。再び徳島に戻り、観光名所の大步危小歩危へ。エメラルド色の渓谷を国道から見下ろす。いつも思うことだが、水の色はその場所によってなぜこうも色を変えるのだろうか。水しぶきに映える水色、渓谷に映えるエメラルドグリーン…。しかし、水は透明のはずだよね…?? 人間の瞳が錯覚を起こしているのだろうか!?

続いて観光名所その2、祖谷溪かずら橋。シロクチカズラという植物を柔らかくして、編みこんで作ったという特殊な橋で、戦時には簡単に切り落とせるように仕掛けた、とも言われている。渓谷にとっても似合う橋だった。

山道のドライブは続き、ようやく剣山登山口の見ノ越に到着。見ノ越からはリフトを使い、いざ剣山へ。リフト上の西島からは、剣山の北側にある山々の景観がよく、その下には今日走ってきた車道もよく見えた。(普段は車道が見えてしまうと風情がないと思ってしまうが、自分が運転してきた車道だとちょっとだけ親近感が湧いた。道路整備してくれた方々、どうもありがとう。)

ここから整備されたルートが始まった。剣山山頂までのルートはいくつもあり、本来は一ノ森経由で登頂する予定だったが、あいにく通行止めとなっていた。そのため最短とされる尾根ルートを歩くことにしたが、難なく登頂できた。がしかし、稜線に出るとなぜか大風。いや、突風。視界ゼロ。山頂付近一帯に整備された木道を歩き、山頂立て札までは辿り着いたものの、結局その先に予定していた次郎笈方面の稜線歩きはあえなくあきらめ、今度は遊歩道経由のルートを通して下山した(遊歩道経由の方が歩きやすかった)。途中の日

本百名水の水場は、岩と岩の間から水が湧き出ており、ひしゃくで水を汲みだす珍しい水場だった。

下山後、昼食を作り、再びドライブ。山道を東へ進み、つるぎの湯大桜にて汗を流し、徳島市内へ。

5月7日(日)

移動日。徳島から高速バスで大阪へ。途中の鳴門海峡でうず潮が見られるものだと期待していたが、よくわからなかった。大阪からは始発の新幹線ひかりで東京への帰路に着いた(今回は自由席に座ることができたが、列に並ぶときは喫煙席と禁煙席も注意しましょう!!)。お疲れ様でした。

日本百名山を2座制覇。石鎚山は、文句なしの晴天に恵まれ、7年前から憧れていた山に登頂できたことを心から喜びたい。あの鎖場を登り、果たして自分がどれだけ救われたのか。それは言葉を変えれば、どれだけ自分が生き抜くための力を手にしたのか。でも結局、考えてもわからないから、あとは行動するしかないんだよね。

剣山は山頂に登頂してすぐに下山となってしまったが、雨に降られなかっただけでもよしとしたい。今回断念となった一ノ森から次郎笈までの穏やかな稜線歩きは、次回の楽しみにしておきたい。

ゴールデンウィークだからこそ、ゴールデンなことをしたい、という思いもあり、今回は遠路はるばる四国までやってきたわけだが、観光名所めぐりやレンタカーの旅など、いろんな思い出が増えたことは間違いない。「旅」を交えた山行というのも、今後も増やしていければいいな。

石川暁崇